

# 武蔵野市の災害対策の現状と今後 ～自治と連携と災害対策～

武蔵野市防災安全部防災課

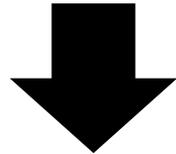
水野 健吾

# 1 自治と連携

## 一人ひとりを大切に 自治と連携のまちづくり

(武蔵野市第五期長期  
計画・調整計画抜粋)

このたび、平成 28 年度からの 5 年間を計画期間とする第五期長期計画・調整  
計画を策定しました。本計画は、平成 24 年度からスタートした第五期長期計画に



## 一人ひとりの生命と生活を大切に 自治と連携の災害対策(災害対応)

具体的には、次の事案を優先的に市として対応する。

- 人命救助及び救助態勢の確保
- 被害拡大防止(延焼拡大等)
- 混乱防止(一時集合場所・駅周辺等の混雑地帯)
- ライフラインの確保(早期点検・早期復旧・代替手段確保)

人命  
混乱防止  
ライフライン

# 1 自治と連携



- 住民一人ひとりが自分と家族の生命・生活を守る
- 地域で助け合い、命を救い、混乱を防ぐ
- 自治体が災害対策本部を中心に住民の生命・財産を守るために効果的・効率的に機能する



- 他自治体と連携して、効果的に効率的に支援を受ける(受援)
- 機関・企業・NPO等多様な主体と協力し、被災者の生命を守り、生活を支援する

自助

共助

公助

## 2 日頃の取組と市の役割

自助

共助

- 家庭での備えの推進
- 市の災害対策全般に対する周知
- マンション、町会等の自主防災組織の設立支援
- 避難所を中心とした地域活動の支援

啓発、周知、広報  
地域活動の促進支援  
訓練の実施

防災意識を根付かせる

公助

- 災害対策本部の機能強化  
マニュアル整備、情報集約のシステム化、機能の多重化、施設整備、資器材等の備蓄
- 連携強化  
協定締結、協力体制の整備、  
受援体制・支援要請体制整備

事案・対応の明確化

人員・物資・設備の洗い出し

物資  
整備

施設  
整備

受援  
計画

協定  
締結

# 3 主な公助の取組

近年、武蔵野市が力を入れている取組

災害対策マニュアルの整備

・大きく2種類のマニュアルを整備する

1) 迅速な意思決定のためのマニュアル

- 何を判断するための情報
- 情報を集める手法や手段
- 情報を見る形式
- どのように判断をするか

2) 具体的にいつ誰が何をするかを整備したマニュアル

- 対応すべきこと、対応したいことの一覧化
- 工程の整理
- 作業の優先順位の決定
- 人・物・場所等の割り振り

目標点

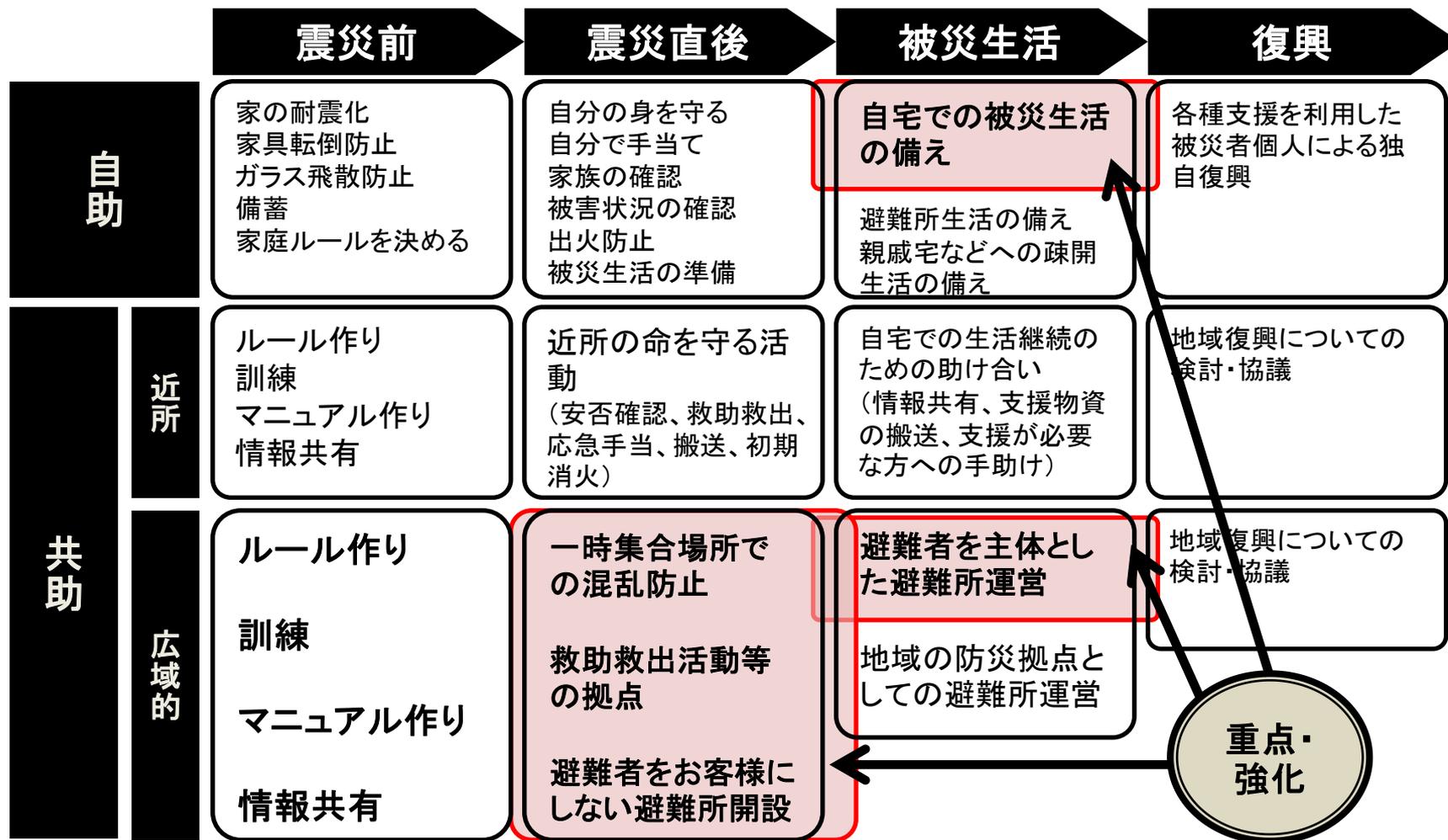
◆ 市の災害対策本部機能の強化

- ◆ 真に市がやるべきことを決める
- ◆ 受援計画、備蓄の計画に反映

キーワード: 「情報」、「受援」

# 4 主な自助・共助の取組

## (1) 災害時の自助共助の考え方



# 4 主な自助・共助の取組

(2) 近年、武蔵野市が力を入れている取組

## 自助

### 「家庭での備え」の促進・啓発

- ① 命を守る : 住家の耐震化、家具転倒防止、ガラス飛散防止
- ② 出火防止 : 消火器、住宅用火災警報器、感震ブレーカー
- ③ 被災者生活に向けた備え : 水、食糧、トイレ

## 共助

### 「身近な共助」の推進

- ◆ マンション自主防災組織の発足支援

### 「広域的な共助」の推進

- ◆ 避難所運営組織の設立支援(平成28年度に市内全域を網羅)

# 4-2 避難所運営組織の事例

## (1) 境南地域防災懇談会

発会：平成11年

東京都防災隣組(第1回)認定  
(平成24年度)

### 《特筆すべき取組》

- 武蔵野赤十字病院と連携した医療訓練の実施
- 日赤看護大と連携した介護トリアージ(仮称)の検討
- 丁目(地域)ステーションを設置

- 丁目ごとに公園等を利用して、一時避難する
- 避難した住民が協力して、救助救出や安否確認等を実施する

発会から15年以上経過

武蔵野市で最初の避難所運営組織

市のモデル的組織として他団体の参考に

医療機関・福祉施設と住民が連携する先進事例

- 避難所の混乱を緩和
- 早期の安否確認、救助救出、初期消火等を実現

# 4-2 避難所運営組織の事例

## (2) 一中地域防災会

発会：平成25年

東京都防災隣組(第4回)認定  
(平成27年度)

- 避難所運営組織は、混乱防止や避難所の開設・運営
- 救助救出や初期消火等は近所の取組

### 《特筆すべき取組》

- 大きな共助と小さな共助の役割分担
- マンション自主防災組織、町会自主防災組織の設立支援に尽力(平成30年2月時点:22団体)
- マンションや町会との連携体制の確立

一つの地域内に短期間で多くの自主防災組織を設立

武蔵野市民の約6割強がマンション住民



武蔵野市の新たなモデル

# 4-2 避難所運営組織の事例

## (3) 東部防災会

発会：平成24年

東京都防災隣組(第6回)認定  
(平成29年度)

### 活動例

5月 総会+学習会(トイレのミニ講座)  
6月 防災マップづくり  
9月 東部フェスティバルでの啓発  
10月 小学校での宿泊訓練  
12月 中学校との合同訓練  
1月 防災地域フォーラム  
2月 防災ウォーキング

### 《特筆すべき取組》

- 2ヶ月に1度の頻度でイベントなどを実施
- 他団体の既存イベントを上手に活用
- テーマは自助・共助・近所
- 「若い人は普段参加できなくても、いざとなれば活動しようとする」という考えのもと、「来たときには指示を出せるように」と避難所の準備

「避難所ではなく、自宅!!」の推進

# 5 今後の取組

今後、重点的に取り組む項目

自助

- 家庭における携帯トイレの備蓄推進
- マンション自主防災組織の設立推進
- 避難所運営組織の活動の強化

多様な市民の参加促進

ターゲット：子育て世代  
(保育園保護者)

共助

公助

マニュアルの整備

- 情報集約のシステム化
- 訓練の充実
- 資器材、施設の整備

本部機能強化

- 支援に委ねる事案の整理
- 要請する(人・物)の洗い出し
- 支援要請方法の確立
- 協定等による連携先の確保 等

受援体制の強化